

2014年度のハイライト

グループを挙げたCO2排出量削減

事業活動全体を通じて、CO2排出量の削減を推進

気候変動の主な原因とされるCO₂などの温室効果ガスの排出量削減は、現代社会の重要課題の一つです。そこで2020年度中期目標として「2020年度までに国内8事業所で1990年度比30%削減(絶対値)、海外の生産拠点(USA除く)*で2006年度比20%削減(売上高原単位比)」を掲げ、そのマイルストーンとして、「ブラザーグループ中期環境行動計画2015」(2011～2015)を推進しています。さらに2013年度からは、CO₂排出量削減活動の対象範囲をグループ全体に拡大するとともに、ISO 14064に基づいたスコープ1、スコープ2に対する検証受審活動やグループ外の環境負荷として定義されているスコープ3への対応も開始しています。

*: USAの生産拠点は、施設が販売拠点の一部であることから、CO₂排出量は販売拠点の実績として管理しています。

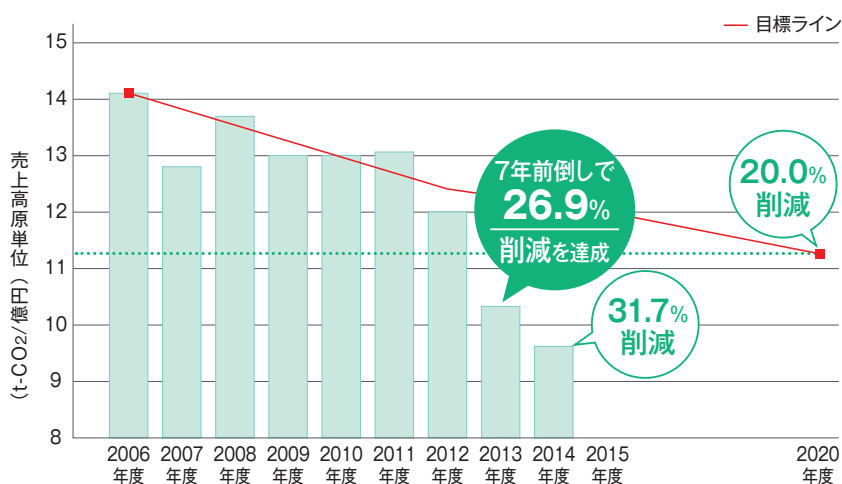
2014年度活動ハイライト

国内8事業所は、CO₂換算値で2013年度比374トンの削減(2.3%削減)、2020年度中期目標に対しては、2014年度目標の24%削減を達成する25.2%の削減となりました。

海外生産拠点では、売上高原単位で2013年度比6.6%のCO₂排出量削減となり、「ブラザーグループ中期環境行動計画2015」(2011～2015)の2014年度目標を達成しました。なお、2020年度中期目標に対しては、2013年度に7年前倒して目標を達成した後もさらなるCO₂排出量削減活動を推進し、2006年度比で31.7%の削減となりました。

物流におけるCO₂排出量削減は、2014年度から計画どおり年率1%(売上高原単位)の削減を進めています。2014年度は、売上高原単位で2013年度比9.5%の削減を達成しました。

海外生産拠点売上高原単位の推移



2014年度のハイライト

グループを挙げたCO2排出量削減

ISO14064-1に基づく温室効果ガス(スコープ1、2、3)排出量算定

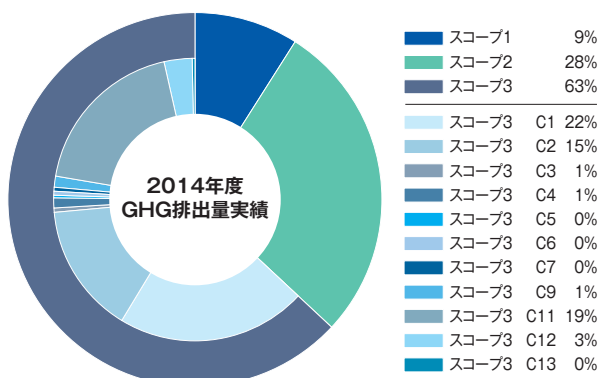
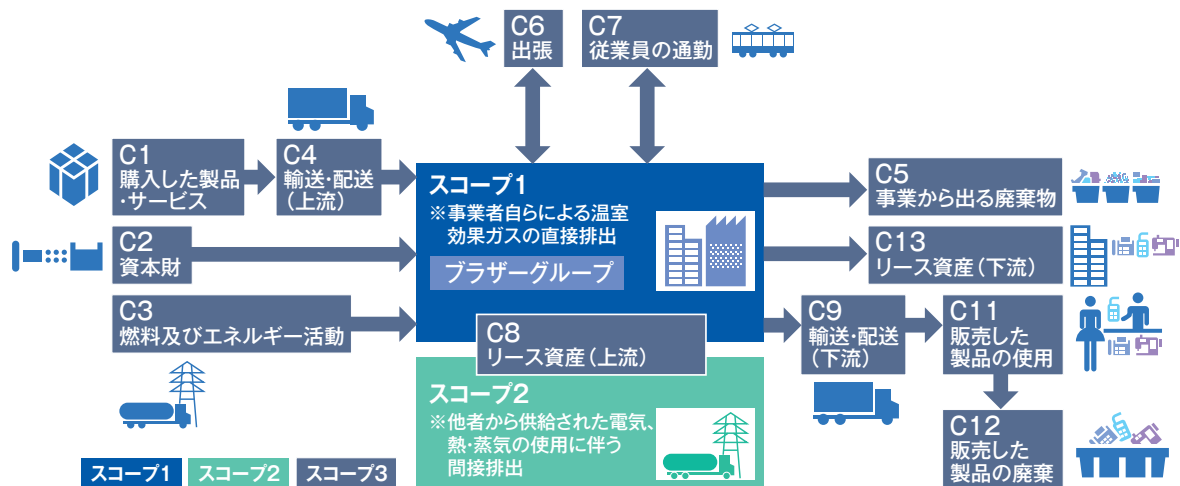
2013年より新たな取り組みとして、世界共通の指標であるGHGプロトコルに準じ、各事業所の国別・地域別の排出係数を用いたスコープ1、2の算出を開始しました。さらに2014年度は、スコープ3の算定も開始しました。

また、算定結果の信頼性を検証するため、第三者機関による国際基準(ISO14064-1の要求事項)への適合性について検証を受け、データの認証取得にも努めています。2013年度は、国内8事業所と三重ブラザー精機株式会社(以下、三重ブラザー)のスコープ1、2の算定結果について、2014年度は、国内8事業所と三重ブラザーのスコープ3の算定結果および、全生産拠点のスコープ1、2の算定結果について、データの認証を取得しています。

スコープ1、2、3算定結果

※算定結果の開示対象(集計範囲)を、第三者機関による検証を受けた拠点に絞りました。

	2012年度	2013年度	2014年度
スコープ1(t-CO ₂)	2,016	1,842	29,389
スコープ2(t-CO ₂)	15,358	15,667	88,939
スコープ3(t-CO ₂)	—	—	204,719



PDFを表示 [PDF/3.3MB]

GHG排出量算定・開示に際し、LRQAによる保証声明書を取得しています。

詳細報告

▶CO₂排出削減活動
<http://www.brother.co.jp/eco/facility/index.htm>

▶ISO 14001認証取得拠点一覧およびISO 14064検証受審履歴
http://www.brother.co.jp/eco/facility/iso_14001/index.htm

▶詳細データ
<http://www.brother.co.jp/eco/performance/data/index.htm>